

地域活性化等対策調査特別委員会

- 1 日 時 令和6年8月1日(木曜日)
午前10時00分～午前11時30分
- 2 場 所 委員会室
- 3 出席委員 杉山武志 委員長 藤井敏通 副委員長
竹岡昌治 委員 山中佳子 委員
三好睦子 委員 岡山隆 委員
秋枝秀稔 委員 戎屋昭彦 委員
村田弘司 委員 末永義美 委員
山下安憲 委員 石井和幸 委員
井上敬 委員 竹下駿 委員
三善庸平 委員
- 4 欠席委員 なし
- 5 委員外出席議員
荒山光広 議長
- 6 出席した事務局職員
岡崎基代 議会事務局長 石田淳司 議会事務局議事調査班長
寺埜真輔 議会事務局庶務班長
- 7 説明のため出席した者の職氏名
なし
- 8 会議の次第は次のとおりである。

午前10時00分開会

○委員長（杉山武志君） 皆さん、おはようございます。ただいまより、地域活性化等対策調査特別委員会を開会いたします。

議長、報告事項等ございましたらお願いいたします。

○議長（荒山光広君） お疲れさまです。地域活性化等対策調査特別委員会が設置されました。この特別委員会の中で、しっかりと美祢市の課題等について御議論を深めていただいて、前向きな政策提言ができることを皆さんと一緒に議論できたらと思います。委員長、どうぞよろしく申し上げます。

○委員長（杉山武志君） ありがとうございます。

この特別委員会は、6月議会におきまして設置され、7月9日の第1回目の会議では、正副委員長を決定しましたところでありまして、本日は第2回目の会議となります。

本日は、次第を配付しておりますが、今後の委員会運営について協議を行いたいと思いますので、よろしくをお願いいたします。

それでは、早速議事に入っていきたいと思います。

次第の1番になりますが、今後の委員会運営ということにつきまして、副委員長といろいろ協議、相談しまして、運営方法を案を考えております。皆さん、配信されておりますですかね。これをちょっと見ながら説明したいと思っております。また、その後に皆さんの御意見、こうこうこう変えたほうがいいですよとかですね、いろいろ御提言を受けたいなと思っておりますが。

まず基本的な流れとしまして、本来の予算編成というものが、次年度の施策の予算編成が大体8月末から始まり、12月から1月上旬には決定されるという流れがございますので、急な案件を除き、11月上旬までには、政策提言書の提出が必要となるんじゃないかということが基本的な流れとしてあります。このことから、本年度は残り3か月程度の短期間で調査・報告をしなくてはならない。

そして、2番になりますけど、令和6年度につきましては、今お話ししましたとおり、残り3か月程度の短期間で調査・報告をしなくてはいけないという、ちょっと急なことになりますが、この委員会に提出いただく提言書というものをちょっと案を、これもまた案をつくっております。様式をつくっておりますので、その様式をできるだけ埋めていただいて、正確な提言書を提出していただきたいという思い

しております。

この提言書（案）も配信していただけます。今、提言書の様式案が送られました。まず委員長、私のほう、この委員会に諮るために、委員長宛てにこれを出していただきたいんですが、埋まるどころだけでも結構です。どれだけ調べられて、どれだけ——確実な案、施策なのかというところを皆さんに御理解いただくためにも、できるだけこれを見ていただいて、出していただけたらなという思いでおります。

それから、今回この15——議長を除く15名ということで組成されておりますけど、項目が5つありますんで、それについて、15名がいろいろ検討するのは時間を要するんじゃないかと思っておりますので、分科会を設置してはどうかという案もあります。分科会に所属して、1から5の項目のどれに所属するかということで、それについて、精度を上げた提言書を出していただいて、これは後年においても同様なんですけど、そのグループグループによりまして、政策提言書を出していただくと、そして、この委員会で皆さんに諮って、それを抽出していければなという思いでおります。

また、3番にありますけど、令和7年度以降は、時間もゆっくり取れると思しますので、1から5の項目のいずれかの分科会に所属し、調査・研究を行い、定期的に進捗状況を委員会において報告する。調査・研究が済んだところから、どんどん政策提言をしていただけたらと思っております。

分科会の15人が5つの部会に所属するとなると重複してもよかろうとは思いますが、会派で取り組んでいただくのが方向性としては良いんじゃないかなということで、その旨を入れております。

本委員会は、定期的開催したいと思っております。その改正時期に合わせて、皆さんからの提言書を取りまとめて、皆さんにお諮りしたいという思いでおりますけど、分科会のほうから、提言書が整理できたからやっつけようという御提案がありましたら、それを日程調整して開催したいと思っております。

その提出された提言書の取扱いにつきましては、本委員会において精査いたしまして、次年度予算編成時までに議会事務局を通じて、ここに委員長名ってなっておりますけど、議長名で、市長に提出できればと思っております。

また、急を要する案件、なかなか間に合わせるの難しいと思うんですけど、共用する案件等がもしございましたらですね、その都度、即時委員会を招集し、対処

してまいりたいという考えでございます。

そして、今市長へ提出された、議長名において提出された提言の実施の可否等につきましても、執行部に後日確認する流れを想定しておりますが、今お話ししましたこちらの案、これにつきまして、皆さんからの御意見とか御要望ございましたら。この場で、今お見せしたばかりなので、即座にっていうのは難しいかもしれませんが、今お考えで、質問ですとか、御提言がありましたら伺っておきたいと思うんですが、どなたかいらっしゃいますか。三善委員。

○委員（三善庸平君） 新人の立場からちょっと発言をさせていただきたいなというふうに思うんですけども、この政策提言についての理解っていうのがちょっとほしいなっていうふうに思っていて、例えば、過去どういうふうな政策を提言されたとか、他の市区町村では、こういう議会で制作したものがあるとか、何かある意味、そういう勉強会じゃないですけど、そういったケースバイケースをちょっと知識をインプットした上で、美祢にとってどういうものが、こういう政策でいいんじゃないかみたいなのが全体として、理解が深まるのがいいのかなあというふうに思うので、何かそういう場を設けていただけるとちょっと新人の立場からするとありがたいなというふうに思ってます。

以上です。

○委員長（杉山武志君） 今期——以前4年間ですね、自主勉強会という形で、政策提言できるような勉強会とかをしておりました、グループを編成してですね。このたびも、できれば会派で分科会をつくっていただいて、項目を絞っていただいて、その場で先輩議員から提言を受けられたり、前議長名で、政策提言等を行っておりますので、そういったこともお知らせできればなと思っております。

勉強会——今お話がありました勉強会については、いろんな場をとらえてやっていきたいと思しますので、また、新人の皆さんからも、御要望を出していただければと思っております。村田委員。

○委員（村田弘司君） 今ちょっと見させていただいたんですが、今の三善委員の発言にもちょっと関連するかと思えますけれども、ちょっとこれ断片し過ぎじゃないか、ちょっと急ぎ過ぎじゃないかなという気がします。

現実にあるこの政策ですよ、それで言えば、今の政策提言書の案がありますけれども、この様式ですよ、下のほうに実施期間とか、単年度予算とか、全体予算

とか、財源とか書いてありますよね。政策的なものというのは、もっと大きなこう上からかけていくものであって、こういう書き方をすると、この政策の実現を具現化するための事業、大きくても施策レベルの話だろうと思います。

ですから、我々が何をなすべきかというのは、議会として、こういう形で希望ある美称をつくってもらい、そのための政策を提言していくという立場のほうが主であって、こういうふうな事業レベルの話というのは、事業の調整権というのは、市長が持ってますから、執行部が持ってますんで、議会のほうから、それは事細やかにこういう事業をしたほうがいいんじゃないかというのは、ここの委員がそういう話をされてもいいかもしれないけども、議会全体としてやるのはどうかなという感じがします。

ですから、我々のこの政策提言っちゅうのは、どういうレベルを指して事を成したいとしておるのか。いきなり11月ぐらいまでに、来年度予算のためにやろうじゃないかということを行ったところで、今、これからもう数か月しかないですよ、大きな政策を考えたときに、それはできると私はとてもじゃないけど思えない。

今、今度新人議員の立場として三善委員がおっしゃったけれども、それはもうむげになるかなという気がします。

ですから、その辺を踏まえた上で、今後、我々がこの4年間でどういう政策をつくっていくのか、そのためには、その4年間の税金でどういうものをつくり上げるのか、提言するかとか、そういうふうな立場でいくべきであって、いきなりもう数か月後に、こういう事業レベルのことを政策として出していくというのは、私は賛成したいとは思いません。

○委員長（杉山武志君） ありがとうございます。本日、運営方法についてのいかがが諮るかというお話なんですが、単年度単年度を私は考えておりました。単年度で、ずるずると4年間するんじゃないくて、単年度で提言し、次のまた提言をしていくことを考えておりましたんですけど、今お話されるのも十分理解しております。

で、政策提言の大きさといいますか、今村田委員のほうから長いスパン、大きな抽象的な案を議会としては出すべきじゃないかというお話でしたけど、皆さん、ほかの皆さんはどのようにお考えでしょうか。村田委員。

○委員（村田弘司君） 今委員長、抽象的なものを出したほうがいいんじゃないかということをおっしゃった。それは違いますよ。大きな政策を考えていく中において、

当然その下に施策なり、事業ぶら下がってきます。

ですけれども、我々がなすべきことは、まず第一義として、この美祢市をどうしたいか、じゃあそのためにはどういうふうな分野について、どういうふうな政策を考えていったほうがいいんじゃないかと、これが必要だろうと思います。先に、ここに先に道を造ったほうがいいんじゃないか、橋を造ったほうがいいんじゃないか、それが違うと思います。それは、物事を実現するための手段の一つであって、それを我々がこの議会として提言するというのはおかしいと思います。

○委員長（杉山武志君） 山中委員。

○委員（山中佳子君） 今の村田委員の御発言によりますと、4年後を見据えたもうちょっと大きなスパンでやったほうがいいんじゃないかということだったと思うんですけれども、今この対策の内訳として、人口減少対策、教育対策、観光対策、まちづくり対策ともう本当、お尻に火がついているような状態だと思います。4年後を見据えてからでは、もうこのまちは疲弊しきっていると思うんですよね。

ですから議会として、そんな大きなものじゃなくても、今回どんな提案が出るかわかりませんが、まずこの3か月やってみたらどうかなと思うんですけれども、いかがでしょうか。

○委員長（杉山武志君） 村田委員。

○委員（村田弘司君） 4年後ってということじゃなしに、先ほどちょっと例えで言ったかもしれませんが、この3か月後に、来年度予算を見据えた形で物事を今からつくろうとしたところで、恐らく十二分なもの——十分なものがないだろうと私は思います。

ですから、少なし、今年、年度途中で、皆さんの意見がこういう政策提言の場をつくろうじゃないかと、議会として特別委員会をつくろうじゃないかという声が出ましたので、私ももちろん賛同しました。その政策提言をするためにはどうしたらいいかということをもまずそれを先にやるべきであって、数か月後に迫った予算編成を踏まえて、予算を編成に、我々が影響を及ぼすということで先に動くよりも、そちらのほうが先じゃないかと、言っているのであって、4年後まで待つということじゃないんです。

ですから、少なしね、今年度中ぐらいいはこういうことを、何をしたいということを取りまとめたその上で、2年目であれば、2年目に政策提言を出してきてもいい

ですし、そういうことをしたほうがいいんじゃないかということで、まず、もうちょっとしか、新年度予算の予算編成の時期が迫ってるから時間がないから、そのためにばたばたとやって、帳尻合わそうということは面白くないんじゃないかということをお願いしてるんですよ。

○委員長（杉山武志君） 井上委員。

○委員（井上 敬君） 今、案を見させてもらって、今、委員いわれるように、本年度は残り3か月程度の短期間ですので、調査・報告の流れとなる予定というふうに書いてあるので、今年度は慌てて出すというよりも、しっかりいろんな話をしていく中で、次年度、2年目、3年目に向けていろんなことを出していったらいいのかなと思いますので、僕はこの案でいいんじゃないかなと思います。

○委員長（杉山武志君） ほかございせんか。戎屋委員。

○委員（戎屋昭彦君） 今、皆さん方、委員長の意見を聞かせていただきまして、私はやはり今、初めて議員になった方もいらっしゃいますし、美祢市をどうするかというのはやっぱり第二次総合計画というのもありますし、本当にそういったものを皆さんが理解した中で、美祢市をどうしていくかということも考えないといけないと思いますし、やらないという意味じゃなくて、当然皆さん賛同して、私もやっていきたいと思ってますんで。

やはり今年は、残り3か月4か月で予算編成というよりは、先ほどから出てますように、どういったものを中心に調べていって、それを取りまとめた中で、来年度、これを1年間でしっかりやって、それを提言して、予算化できるか分かりませんが、そのように考えて、今はまだしっかり案をどうしていくかというところをしっかりと皆さんで煮詰めて、それをまとめて、じゃあ来年度、こうしていこうというふうに考えたほうがいいんじゃないかと思います。

○委員長（杉山武志君） ありがとうございます。皆さん、分科会をつくるっていうことについては、よろしいんですかね。

分科会におきまして、大きい項目が5つありますんで、その中で、どういう流れをつくっていくかというところは、分科会のほうにお任せして、全体的には、もうあと二、三か月しかありませんから、今おっしゃるとおり、その分科会の中でどういう流れをつくっていく、いつ頃を目安に、提言書をまとめていくということではないかなと。戎屋委員。

○委員（戒屋昭彦君） 委員長、二、三か月しかないとおっしゃる、どういう意味ですか。

○委員長（杉山武志君） 本年度はですね。本年度、6年度は、もう今この時期から11月っていうことになる……。村田委員。

○委員（村田弘司君） さっきから私が申し上げたこと、それから戒屋委員おっしゃったこと、三善委員がおっしゃったことも含めて、そのことを言っとるんじゃないですね。だから、それじゃ無理じゃないかということをおっしゃって申上げていますよね。

ですから、二、三か月後につくらないといけんから今からばたばたばたっと、どうしようもないものをつくったところでしょうがないんじゃないかと。みんながちゃんと理解を深めた上で、その上でちゃんとした提言書を出さないと、我々は議会として、やはり市民に対して申し訳ないし、執行部にとっても、議会ってのはこの程度のもんかというふうに思われてしまいますんで、そのことはちゃんとやらないといけない。もう二、三か月——2か月しか、3か月しかないという話はおかしいと思います

○委員長（杉山武志君） ちょっとよろしいですか。今年度については、私のちょっと発言が悪かったのかもしれませんが、今年度については、もう日にちがあまりないんで、その分科会の中で、今後の流れを考えていただくと。

先ほどの村田委員もおっしゃった、いつ、にわか仕込みで帳尻合わせるための提言書でなく、どのような政策を提言していくかということをしつかり練りたいというお話があったと思うんで、それに費やしていただいて結構ですよというお話をしたんですが、分科会の中でですね。村田委員。

○委員（村田弘司君） 今、特別委員会ができました。今、この案が提示されてますんで、この中に先ほど申し上げたように、予算編成のことがまず最初に書いてあるんですよ。だからこれ委員長の思いがあって、これ一番最初に来てるんだらうと思いますけれども。

何遍も申し上げるように、大きな政策を我々はちゃんと勉強した上でそれを固めていって、分科会をつくってもいいですよ。その大きな新しい後期計画が執行部が考えられて、それを我々認めるか認めないかの立場にありますんで、大きな責任持ってますけれども、それを踏まえた上で、じゃあ今年はそのようなことを勉強する年

度に充てて、2年度目、3年度目、4年度目、ですから後期計画、原課のために、我々は任期4年間の間で、あとどういうふうにこの政策提言をしていくかということで考えないと、いきなりその事業レベルのことを、予算が編成されるからすぐつくりましょうという話はおかしいですよと何遍も申し上げてる。

だから、分科会というのは、恐らくそういうふうな政策を考える上の種づくりっていうか、いろんなことを勉強した上で、全体的な市の議会として、政策を提言するための一つの方策でしょうからね。

ちょうど美祢線の分科会を今度つくられることもあったんですけど、それと似たようなもんですよね。物事成就させるために、この分科会を持って、それを成していくというための分科会なら私は賛成だろうと思ってますけれども。

先ほどから、もう二、三か月ということも委員長の頭の中にあるようだから、予算を、来年度予算を市がつくろうとするとそれをこう口を出して、自分が思うとおりの予算はちょっと中に入れてもらいたいということも今年度探すべきじゃないということ言ってるんです。それは個人の議員のレベルとして、何かあれば、それはそれなりにやられてもいいかもしれないけども、市のほうの特別委員会、市を代表したような特別委員会をつくったわけですから、それはそれとして、ちゃんとした重みを持って考えなくちゃいけないというふうに考えてます。

○委員長（杉山武志君） 先ほど三善委員、挙手がありましたけど。

○委員（三善庸平君） あくまで僕の意見は無理だというふうに思って発言してるわけじゃなくて、分からない部分もあるので、その勉強なり、知識入れた上で取り組みたいということなので、例えば3か月後に絶対できるかできない、できないからしたほうがいいのかっていう発言じゃないというところをちょっと明確にしておきたいと思います。

○委員長（杉山武志君） そのほか、皆さんから。このたび出してるのは案でありますので、皆さんのいろいろと御協議いただいて、また、いろいろ中身を変更してまいりたいと思うんですけど、今日しっかりとちょっと気になったところを御意見いただきたいなと思っております。三好委員。

○委員（三好睦子君） 例えば、この調査の中で、人口減少対策を取上げたときに、まず原因——どうすればいいかっていうことがこの他——人口減少に解決するにはどうしたらいいかっていうことをまず考えるに当たって、調査とか勉強もあるでし

よう。だから地域に出て、実際に市民の声を聞くとか、いろんな方法があると思うので、この1番とった場合に考えた場合ですけど、現地っていうか——出て行って、いろんな声を聞くとか、それから政策、市が出してる計画——年間の計——4年間、あれがありますよね。（発言する者あり）とか、いろんなことがあって、調査とかする。そのまず、段階的に一つ一つやっていくっていうことで、最終的には、だから、2年後になるかも分かりませんが、一つ一つをやっていく。

特に言いたいのは、現場に出て、実情を知るっていう調査ですかね——と思うんですけどね、人数なんですけど、会派とか言われましたけど、私なんか1人会派ですし、5項目でこの5ですよ、15人で3人ずつっていうことなんですかね。

一つ一つの人口減少対策について考えた場合のことについてちょっと思ったわけですけど、実際に活動する、動く場合には、現地に行ったりいろんな調査があると、まず美祢市の全体がどうなるかということをもっと勉強していく。そして現地に出て、どうなってるかを聞く。そして、それを実現する——市民の声を通して実現していくかっていうところに最終的な目標があるかと思うんですけど、そんなふうな感じでいくのかなと思ったんですけど、どうなんでしょうか。

○委員長（杉山武志君） ありがとうございます。この分科会、今人数、3人程度と言われたんですけど、重複所属も可能ではないかなと思っております。1番と3番を考えて調査していきたいんだと思われる方がいらっしゃれば、1番、3番に在籍されて、そこでいろいろと活動されればよかろうと思いますし。

以前ですね、村田委員よりお話ありました第二次総合計画ですか、こちらも審議会が先般行われまして、その内容につきまして、皆さんのタブレットに配信しております。サイトを配信しておりますので、また、どういう動きになってるんだというところも見ておいていただけたらと思います。

そのほか、この運営につきまして、御要望ですとか、お考えが伺える方いらっしゃいましたら、今日、とにかく案ですので、調整を図っていきたくと思いますが。藤井副委員長。

○副委員長（藤井敏通君） この地域活性化等対策調査特別委員会ですか、私、今副委員長ということで、実は今後の進め方ということについて、委員長に提案をしました。で、分科会方式でっていうような私の考えであります。

で、どういうことかといいますと、今回調査事項になってる5つの項目ですね、

非常にやっぱりもう重大なというか重要な問題、もうすぐにでも取りかからんといかんような問題ばかりです。

ただ、そうはいうものの、やっぱりきっちりとした、先ほど三好睦子委員は、調査とか言われましたけども、当然調査も必要ですし、ほかのところの研究も必要ですし、で、やはり最終的には、具体的な提案というか、案を出していくっていうレベルまでならないと本当の提言にはならないんじゃないかなと。

そのためにも、まずは各テーマごとに、特にやはり関心がある、あるいはこれをもう少し詰めてみたいというふうな人に、それぞれのテーマに、複数になってもいいですけども入っていただいて、しっかりそこで協議していただくというか。

だから、私は実は、委員長が言われるようなこの今期の予算に間に合うように、何か具体的な提案というよりも、むしろやはり村田委員が言われたように、もう少し腰を据えて、本当に何が問題で、じゃあそれをどうすれば、この美祢に何とか合うようになるかっていうのは、やはり最低でも半年なり、1年なりはかかると思うんですよ。でも、それをしっかりやった上で、これはやりましょうというふうな案まで落とし込んでいって、提言するっていうふうにしたいと思います。

そのためにはですね、やはりもう少し委員の中で、5つのテーマ、人口減少、教育、観光、まちづくり、そしてその他は、私は、秋枝委員言われたけど、私もそうですよ、農業、これを5つのテーマにしたいなというふうに思います。

それで、例えばですけども、観光とかいうことについて言えば、新人ではありませんけど三善委員、やはりこの前の一般質問のときでも、具体的にこういうことをやったらどうだろうというふうな案もおっしゃってました。

そういう意味で、やはりもう少しそれを具現化できるように、委員の中で話し合っていたいただければなというふうに思いますし、石井委員はまちづくりをやるということでおっしゃってたんで、もっとやはりそこを深掘りしていただいてっていうか。だから、やるからには、それなりのやはり提案というか、具体的な実行案まで落とし込むまで——落とし込むほど、やはりきっちりやらんといかんと思いますね。

そういう意味で、私もこの今回の予算に対しての提言とか何とかというよりも、1年なら1年ぐらいで具体的な方向性なりを決めて、それを深めて、1年後、2年後ぐらいに、具体的な案にするというふうなことでいいんじゃないかなと。

で、5つのテーマを全員でっていうのはなかなか大変でしょうと思うんで、やはりグループ2分科会に分けて、もう少しやはりきっちり議論していくということで、いかがかなというふうに思うんですけど。

以上です。

○委員長（杉山武志君） 三好委員。

○委員（三好睦子君） 今聞きながら思ったんですけど、5番のその他の設置目的のための調査事項というのが1、2、3、4に入ると思うので、5番目のところ、農業とか地域の産業、商工とか、農業とか地域の産業ですね、これを入れたらどうかと思うんですけど。

まちづくりっていうのはそれぞれ出身の地域があると思うので、私なら、例えば美祢に行ってもちょっと分からない。やはり美東町のことじゃないと分からないので、まちづくりに関しては、出身のところで対策をするのがいいかなと思ったんですけど。

その5番目に農業を入れてほしいと思う。秋枝委員も、藤井委員も農業する者にとってはちょっとよく分かるんですけど、その農業だけに特化するのか、商店——中小企業、零細企業の小さな商業だけ出しておられる方もあるので、それらをどうするのか。（発言する者あり）その他。設置目的と調査事項というのは、1、2、3、4に入るべきものですよね。

○委員長（杉山武志君） よろしいですか。今この上の4つは、大体総合計画に沿った項目になっておりまして、それ以外にも皆さんいろいろ思いがあろうと思ってその他ということ——農業とかがっていうのはですね、総合計画の中には、具体的にうたっていない、項目として上がっていないもので……（上がってますよと言う者あり）上がってますかね。この強みを生かした産業振興ですか、農業等の振興がありますね、この中に。もし農業がございましたら、その他に所属された方が共同で農業……三善委員。

○委員（三善庸平君） ちょっと落ちどころの1つの提案というか、どうなのかなと思ってるのは、ちょっと今年度に至っては、やっぱりその期間とかで結構皆さんいろいろ思いを持ってらっしゃる方多いと思うので、逆にそこにちょっと注目して、その3か月以内でも政策提言ができるんじゃないかっていうふうに考えられている方と、いやそうは言っても、その期間短いから難しいって言ってる方で、今年度に

至っては分けて、できると思ってる方も政策提言の案文出し合って、ルールにとらわれずやるっていうのはあるかと思えますし、ちょっと難しいんじゃないかっていう人は、先ほど村田委員が言われたように、大きいテーマからどういうふうに政策提言していくかみたいな政策提言、ノウハウじゃないですけど、その部分を中心にやる。やって、来年度分科会みたいに分けて、みんなある程度ノウハウを持った状態で、提言を進めていくとかっていうやり方がいいんじゃないかなと思うんですけど。一旦ですけど。

以上です。

○委員長（杉山武志君） よかろうと思います。村田委員がおっしゃったことも踏まえて、先ほどの藤井副委員長のほうからもお話がありましたけど、分科会を皆さん、設置をよしとされるならば、その中で、しっかりと練り上げたものをつくっていただいて、今年度につきましては、いろいろともう長く議員をされておって、視察等のお考えをお持ちの方は、今、三善委員言われますとおり、出されればよかろうと思いますし、分科会において出すべきか、もっと練るべきかというところを検討いただくと、私はそれでよかろうと思います。ほかに御意見。岡山委員。

○委員（岡山 隆君） こういった提言に対して、5つあります。今、非常にですね、代表項目でもありまして、まずこの人口減少対策ですかね、これは実際の市の執行部、いろいろ中心に調査してやってきてるけど、現実には、人口はどんどん減っている。もう県、国レベルで一緒なんですよね。

だから、これは分科会三、四人とかね、そういったようなレベルで問題点、提言していく、そういうことが非常に私は難しいと思ってるんです。だから、美祿市として、どこまで現状の減っていくのをどう減少を少なくしていくか、そういった方向にはなっていくとは思いますが。

それで、国、自治体の対策ができない中で、やっぱり議会がその隙間を抜って、今までにない、こういった提言までせんと意味がないですからね、それをやっていこうという覚悟は、私たち委員が本当にあるかどうか、それをやっぱり問われてると思います。非常に責任が重たいなということを、あと教育も観光もそうです。

だから、この辺については、私はもう三、四人の分科会で話にならんかな。今はやっぱりこの人口対策見ても、16歳から39歳、これがもう美祿市はどんどん出ていって、もう人口が増えるっていう、もう方向性が全然見えてないんです。もう吉敷

のほうに、美祢市から出て行って家を建て、どんどん向こうに住んでいます。そういう背景があるということ認識して、もう少しいろいろこれについては、調査して、そして、行くこと。先進地のいろんないいアイデア、それもよそから取るような感覚じゃ駄目ですから、その辺も踏まえながら、1つの人口減少対策、やっぱり現場の声をしっかり聞いて、やっぱり先進地をきちんと行って、そういった中から若い方のこれからの時代、だから、そういった人のアイデアというのを私はしっかりと入れていくことが大事です。

だからそういった、今後やっぱり時間をかけて、ある程度、今年いっぱい調査をしっかりとやって、来年から対策のほう具体的に進めていく、そういう方向がいいんじゃないかと、私、一つの考え方なんですけど。

○委員長（杉山武志君） ありがとうございます。委員会、特別委員会を時々、特別委員会を開催するときですね、進捗状況をいただければ、それはそれでよいのではないかと。毎回委員会を招集する都度、提言書を出してくださいというわけじゃなくて、長く時間がかかるものもあろうと思いますので、調査状況、どんな状況にあるという報告を途中途中でしていただければいいのかなという思いもしております。石井委員。

○委員（石井和幸君） 分科会なんですけど、今、令和6年度とか、令和7年度とか、年度にこだわらないで、分科会のほうはちょっと早めにつくってもらって、人数の調整もあると思うので、それはちょっと早めにさせていただいたほうがいいかなと思います。

○委員長（杉山武志君） 竹下委員。

○委員（竹下 駿君） さっき三善庸平委員とちょっと似た感じになるかもしれませんが、僕もちょっといまいち政策提言書の書き方とか、どこまで詳しく書いて、数字の算定とか、予算とかですかね——っていう組み方も、どのぐらいの金額を提示したらいいかっていうのもちょっとよく分からないので、その辺もある程度理解した上で、できればこの提言書を僕は記入していきたいと思うので、その3か月で足りるものなのかどうかっていうのも分からないですし、これは1年、3か月が長いのか、3か月が短いのかちょっと分からないんですけれども、でも確かにスピードを持ってやることと慎重にやることを、ある程度いいところのあんばいの時間をとってやるべきだと僕は思います。

○委員長（杉山武志君） 山中委員。

○委員（山中佳子君） 三善庸平委員、それから竹下委員の言われるとおりでと思います。本当急がなければならないものもあると思いますので、この二、三か月で出るものもあるかもしれません。そういうものを一応出してもらって、それはそれがそのまますぐ市長のところに行くじゃなくて、またこの特別委員会で練られると思いますので、皆さんからいやいや、村田委員がいやこんなことは今頃まだ早いよと言われれば、また皆さんで考えればいいですし、まずやってみることが必要なんじゃないかなと思います。

以上です。

○委員長（杉山武志君） 秋枝委員。

○委員（秋枝秀稔君） 私は3か月という期間短かすぎだと思います。結論をそんなに急ぐべき、そんな事案があるのかなというふうに思うんです。

で、職員から見たら論破されますよ、こんな提言かと、こういうところですね。だから、相当吟味してやらんとですね、何かこんなふうかという、こういうところで終わっちゃあ、本当に何のためかっちゃうことになると思うんですよね。

○委員長（杉山武志君） 井上委員。

○委員（井上 敬君） 今いろんな議論されてますけど——されてますけど、そもそも僕は議員になっていろいろ見させてもらったんですけど、JRの特別委員会が今あって、私個人で、例えば提言していつてできることと、議会でこうして特別委員会をつくって話を出していくことと、やっぱり思いが違うと思うんですよね。

で、もしこの特別委員会ができなければ、何も生み出すことができない。今3か月とか、1年とかいろんな期間を言っておられますけど、そういうことではなくて、もうとにかく今石井委員が言われるように、分科会をつくって、まずスタートして、話をどんどんしていく中で、すぐに出せるものがあれば、それは出せばいいだけのことであって、出せなければもっと練ればいい。何かそんなにこだわらなくても、しっかりと分科会に分かれて、複数を選べるわけですから、いろんなところに顔を出して、どんどん話をして進めていくという。もともと何もなければないものを新たに作るわけですから、まずはやってみるということを進めていくということの問題ないと思うんですよね。なので、ぜひ、早速進めていってほしいなと思います。

○委員長（杉山武志君） 村田委員。

○委員（村田弘司君） 言わずもがなと思いますけれども、これ美祢市議会の特別委員会として設置をされたということですよ。ですから委員長名で、政策を市長に出すということ、これ今、運営方法の案の中にも、第4項目に上がってます。（議長名でと発言する者あり）議長名で。すみません、議長名で市長に出すようになってますよね。それほど重みがあるんですよ。

ですから、そこに至るまでについては、恐らくこの委員会で随分たたいていて、そして議会として、そういうふうな政策を提言しますと、ある覚悟を持って出すべきだろうと私は思ってます。

先ほど秋枝委員がおっしゃったけれども、秋枝委員もかつて行政マンをしておられました。私も行政マンをしておったことがある、市長もしたこともあります。ですから、余りに軽々なものが議会のほうから出てくると、逆にこの程度かということ、先ほど申し上げたけれども、執行部サイドから思われてしまう。そうすると、それからあと出していくものがどうせこの程度のもんだろうというふうに、たかをくくられる、言葉悪いですよ。言葉悪いかもしれないけど、たかをくくられるようなものを次から次へ出したところで、決して、それは市として、具現化するように動いてくれないんじゃないかと思います。

我々の調整権が執行部にあると先ほども申し上げたけれども、あくまで予算は、提示するのは市長サイドですから、それがいいか悪いかというのが議会であって、その予算化をするかどうかの仕事まで持っていくだけの力が我々ないといけないんですよ。そういうことをずっとさっきから言ってるわけですね。

○委員長（杉山武志君） ありがとうございます。分科会でいろいろ御検討、調査いただいて、この委員会に出してもらおうと。そして、皆さんからいろいろ御意見をいただいて、そこで差戻しもあると思うんです、私。もう少しここを検討して出したほうが執行部は理解してもらえますよとか、これをもう少しこうしたほうが具現化できていいですよとかいうことで、1回出してもらって、それを差し戻されて、またそれに手を加え、調査をされて、再度出していただくと、そうしたもので、しっかりとよくなったものを議長名で市長のほうに提言できればなというのは私も賛成であります。

そのほか皆さんから。先ほどお話ありました分科会を早急にスタートしたほうがいいんじゃないかというお話もありましたので、今日お帰りの際には、どの分科会

に所属したいということで、御要望を伺ってお帰りいただきたいと思うんですが。
そのほか皆さんから何かございましたら。竹岡委員。

○委員（竹岡昌治君） 何も言うてないんでね。せっかくですね、委員長、副委員長が協議されて、本特別委員会の運営案をこしらえられたんで、取りあえずこれで行ってみましょうや。その上で問題が出たら、また方向転換してもいいんじゃないですか。できるじゃ、できんじゃっていう議論よりは、取り組んでみましょうや。いかがなんですか、皆さん。

我々やっぱり議会出るときに、それぞれ、三好委員は今から調べるとおっしゃったけど、思いがあって出てきたはずですよ。やってみましょうや。

以上です。

○委員長（杉山武志君） ありがとうございます。秋枝委員。

○委員（秋枝秀稔君） 私も竹岡委員に賛成です。でも、そこで1つつけ加えたいのは、例えば分科会で検討して、これは出すべきという皆さんの合意があれば出してくると。出せ出せ出せ出せ言うて出す、そういうレベルの話じゃないと思いますので、ひとつその辺は、皆さんで確認しておきたいというふうに思います。

○委員長（杉山武志君） 村田委員。

○委員（村田弘司君） 私もこの案をつくられるまでの苦労というのを察しております。十二分に尊重したいと思います。ただし、やはりここに特別委員会の委員として出席してる限りは、いろんな意見を持って、この委員会は成り立ってるわけですから申し上げました。恐らくいろんな意見が出ましたんで、ベースとして、これはあるということで、走られても結構だと思います。

今日いろんな意見が出ましたんで、それを踏まえた上で、今後いろんな形でこの委員会を運営してもらいたいし、それを具現化、ちゃんとした政策を提言させるために、努力を我々もしますし、委員会としてもやっていただきたいと思います。

○委員長（杉山武志君） ありがとうございます。三好委員。

○委員（三好睦子君） 分科会のメンバーというか人員、人数ですけど、マックスとかあるんですか。（発言する者あり）誰でもいいけど、いいけど、例えばですよ、人口減少に15人どつといくっていう可能性もあります。（あり得んと言う者あり）あり得ん。

○委員長（杉山武志君） 質問の際ちょっと大変申し訳ないんですけど、こちらのほ

うで、今日お帰りの——御要望をお伺いして、ある程度人数調整をさせていただければなど。例えば、1番に15人が入れば、これでやるのと同様になりますんで。

○委員（三好睦子君） 何人とか決めてるわけじゃない。

○委員長（杉山武志君） 人数制限は考えてないです。意見が取りまとめがしやすいような人数になるだろうなっていうところを考えさせて。そのほか御意見、御要望ございませんか。よろしいですか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（杉山武志君） では、本日いろいろとお話いただきましたことをこの提言、運営方法に盛り込みまして、先ほど来村田委員より何度もお話いただきました。急ぐものでもないですし、軽率な提言書というのも困りますので、しっかり各分科会で練っていただいて、それをこの委員会にかけていただきたいという思いであります。

次に、次第の2になりますけど、次回開催日、これも分科会を組成されれば、組成されたメンバーのお名前ですとか、代表者ですとか、どういった大きい項目、人口減少対策ですとか、教育対策についての中のこういった項目について、調査・研究を図っていきたいっていうまで絞られたものは述べていただけたらなと思うんですけど、いつ頃がよろしいでしょうか。副委員長、どうぞ。

○副委員長（藤井敏通君） 次回開催の前に、一応、分科会方式でやろうということは、一応承認されたというふうに私は理解しました。

そうすると、今日はやはりその分科会のメンバーをやはり決めんといかんじゃないですか。その上で、じゃあ次回は、例えば分科会でこういうふうなテーマに基づいて、こういうプロセスでこういう調査・研究をやるのかっていう報告をしてもらおうとか。ただやはり今日は、分科会員のメンバーを決めないと次のステップにいけないんじゃないかなと思いますけど。

○委員長（杉山武志君） 先ほど、私もお伝えしましたが、分科会の中で、その辺を決めていただくためにも、本日、分科会の設置っていいですか、メンバーの振り分けというものが必要になるかもしれません。

ここで、10分程度休憩をとりまして、その間に、皆さんからどのグループに所属されるというところを御希望を伺いたいと思いますので、ここで、10分まで休憩をとります。その間にどちらのほうに、どの分科会に所属したいというお申出をいた

だきたいと思いますので、よろしく願いいたします。

○委員（竹下 駿君） もう1つだけ。

○委員長（杉山武志君） 休憩取り消します。

○委員（竹下 駿君） 先ほど会派でという話があったんですが、例えば重複——重複というか、まちづくりと観光をどっちでっていうふうになった場合は、会派で合わせたほうがよろしいのでしょうか。それとも個人個人で上がっても大丈夫なんですか。

○委員長（杉山武志君） そこは個々でもよかろうと思います。基本的な考え、政務活動費とか、そういった関係がございますので、会派とか、そういうグループ単位でのを私は考えておりましたが、複数の分科会に所属されるのであれば、やはり個々になりましようから、そこはやむを得ないと思います。

○委員（竹下 駿君） 分かりました。

○委員長（杉山武志君） では、これで休憩入ります。よろしく願いいたします。

午前10時55分休憩

午前11時28分再開

○委員長（杉山武志君） 休憩前に引き続き、委員会を再開いたします。

休憩中に分科会の希望をとりまとめ整理いたしました。1番の人口減少対策については5名の方いらっしゃいまして、代表を岡山委員がしていただけるということになっております。2番の教育対策につきましても5名の希望がありまして、藤井副委員長が代表をされるということになっております。3番の観光対策については、8名希望がございました。これにつきましては、三善庸平委員が代表を務められると。次に、4番のまちづくり対策につきましても、7名の希望がありまして、竹下委員が代表を務められると。そして、5番目のその他、これにつきましては、5名の希望がありまして、山下委員が代表を務められるということになりましたが、それでよろしゅうございましょうか。はい、よろしく願いいたします。

それでは、先ほどお話しかけましたが、次回の開催日につきましては、各分科会の中でどのような流れにされるのか等々お話がありましようから、それが整理された時点で、次回の開催日の調整を図りたいと思いますが、それでよろしゅうございましょうか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（杉山武志君） その他皆さまから何か御意見、御要望がありましたらお伺いしたいと思いますけど。よろしいですか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（杉山武志君） ないようでしたら、これにて本日の特別委員会を閉会いたします。どうもありがとうございました。お疲れさまでございました。

午前11時30分開会

上会議の顛末を記載し、相違ないことを証するためここに署名する。

令和6年8月1日

地域活性化等対策調査特別委員長